

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

■会長 岡戸 利直
■幹事 鈴木 宏司

半田南ロータリークラブ 例会/毎週火曜日 半田商工会議所 ■創立:1980.2.12
愛知県半田市銀座本町1の1(半田商工会議所内) TEL.(0569)21-0324 FAX.(0569)23-4546 ■認証:1980.2.25



- 司 会 S. A. A 杉浦 豊幸君
- ソングリーダー 杉浦 豊幸君
- 国 歌 「君が代」
- ロータリーソング 「奉仕の理想」
- ピアノ 中田美由紀さん

会長挨拶

会 長 岡戸 利直君



梅香る季節となり、春の訪れを感じる今日この頃です。ユネスコによると、世界で読み書きできない人が約9億人に上り、その内3分の2が女性で、小学校に行っていない児童は5,700万人いるといわれています。

3月は識字率向上月間です。日本においては直接識字率の問題はありませんが、ロータリーは世界の地域社会で、識字率の低い国に、基本的教育と識字のニーズに応える事を約束しています。読書のプログラムを企画すること、学校に本を寄贈すること、学校建設を援助すること、地域の図書館を援助することが求められています。

当2760地区のプロジェクトとして、ベトナムに幼稚園の改築工事を行い、その引き渡し式に出席するため、本日3月4日から田中ガバナーと国際奉仕委員会のメンバーが出発し、国際奉仕と親善友好を深めてきます。

このほかにも、世界の識字率を向上するためにできることは多くありますが、支援を求めている識字プロジェクトなどを3つ紹介します。

- ・カンボジアのプノンペンRCは、田舎村で活躍する移動図書館に対する資金援助を求めています。移動図書館は、1台につき週に約10の町村を訪問し、毎

月約1000人の利用者があり、読書会などの活動に参加しています。

- ・ケイマン諸島のケイマン・サンライズRCは、地元で行う識字教育プログラム「LIFE」の支援者を求めています。このプログラムでは、小学生の生徒が18週間にわたり、毎週4~5日、放課後に読書力向上のための特別教習を受けます。
- ・南アフリカ・ヨハネスブルグのニュー・ダウンRCとモーニングサイドRCは南アフリカ各地の学校に多目的運動場をつくるために、恒例の「9日間自転車レース」を実施します。

ロータリーでは世界で数々の教育の改善に取り組んでいます。当クラブもスリウォンRCを介し、食糧支援や図書支援などの活動を行ってきました。この月間を機会に、私たちの心を新たにしましょう。

幹事報告

幹 事 鈴木 宏司君

- ①理事会報告
- ②卓話スケジュール決定

委員会報告

●出席委員会

第1631回例会 3月4日(火) 天気(曇)

本日の例会は34名の出席にて、出席率は85.00%です。なお、前々回はI. M. 全員登録ですので100%出席です。

●Smiling Box

- 小栗 雅彦君 結婚記念日祝。ビックリしました。
- 都築 延男君 67才になりました。健康について、考える事が多くなった気がします。人に迷惑を掛けない様にしたいものです。
- 永田 明世君 結婚記念日だそうです。人ごとみたいです。でも、今日は私の方から、言うことにします。
- 新美 茂君 結婚記念日です。何回かは忘れました。
- 石川 信行君 本来楽しい誕生日のお祝いも、このごろあまり楽しくなくなったのは、やはり年のせい? 71才になります。

ロータリー情報

間瀬 正君 結婚して四十年よくぞ持ちました。我慢強い二人ですかね？

竹内 俊郎君 間もなく、1才を迎えます。良い1日、良い1年で無事2才を迎えられますように。

石川 勝彦君 歌麿幻の大作「深川の雪」が見つかり4月4日から箱根町の岡田美術館にて公開。ぜひ見てみたいものだ！

都築 利全君 鈴木宏司さん、お帰りなさい。

岡戸 利直君 3月11日の結婚記念日は、東日本大震災と合わせて、忘れる事の出来ない日であります。

山本 育輝君 妻の誕生記念月です。ありがとうございます。

斎藤 健一君 妻の誕生祝い、ありがとう。

横尾 哲也君 誕生祝い、ありがとうございます。

早退します。 近藤 敏通君 中井 民雄君
新美 建司君

合計16名 30,000円

今月の祝賀

● 3月の誕生日祝

横尾 哲也君 都築 延男君 竹内 俊郎君
榊原 肇君 石川 信行君 加藤 裕安君
森島 昭二君



● 奥様誕生日祝

加藤 裕安君 奥様 智枝美様
山本 育輝君 奥様 友江様
斎藤 健一君 奥様 千里様

● 結婚記念日

岡戸 利直君 加藤 裕安君 間瀬 正君
石川 勝彦君 新美 茂君 榊原 肇君
小栗 雅彦君 永田 明世君



スピーカー 地区国際奉仕委員会委員 鈴木 宏司君
演 題 地区国際奉仕委員会 活動報告





識字率向上月間に寄せて

津島ロータリークラブ 会長 鈴木 吉男



美しく汚れなき理想郷、タリバーンの支配下へ

パキスタン北部、カシミール地方とカイバル峠の間にあるスワート渓谷。かつては、豊かさと平和に満ちた生活が営まれていました。近代化を進め、男女両方に開かれた学校を建設、自動車では行くことができない遠隔地にも行政の手を届けました。

しかし、1969年、スワート地方の主権はパキスタン政府に渡り、さらに、2008年にはタリバーン政権が台頭、その後の2年間、人びとは厳格なイスラム法によって支配される生活を強いられました。公開処刑が行われ、女性への暴力が横行し、学校も破壊されました。

ジラニさんは1979年、生活の場を米国へと移しました。彼女は、一から集めたお金で学校を建設し、スワートからの難民のためにシェルターと薬品を提供、さらに、スワート地方に初のロータリークラブを創設しました。

教育への思い

クラブへの入会を呼びかけた最初の人たちの中に、教育者で活動家でもあるジラウディン・ユスフザイさんという人がいました。彼の娘は、今や世界の人となった、マララ・ユスフザイさんです。

15歳のとき、既に優等生として一目置かれる存在だったマララさん。科学、数学、イスラム教育、英語、ウルドゥ語の授業を受け一方で、パシュトゥ語の詩から冒険物語にいたる幅広い書物を読んでいました。彼女のブログには、パキスタン軍とタリバーンの争いや、上空で大きな音をあげる武装ヘリコプターなど、タリバーンの影響下に置かれた生活に関する記述がありました。また、不足する書物、自分の夢、お気に入りのピンクの服、そして教育を受けられない日々がくる可能性などについて、彼女の思いが刻々と綴られていました。ある日のブログには、次のようなメッセージが書かれています。

「タリバーンが、女子の学校教育を禁止する法令を出しました」

「私は教育を受けます。私たちは全世界にお願いします。私たちの学校を、スワートの地を守ってください」

マララさんを襲った悲劇

2012年10月のある日、ジラウディン・ユスフザイさんは、全人教育の推進キャンペーンに参加していました。演壇に上がったとき、一本の電話が入りました。

「私は電話を取ってもらいました。すると彼が私の耳元で、娘が通う学校のバスが襲撃されたことを告げました。目の前が真っ暗になりました。マララが標的とされたにちがいないと感じたからです。」

被害者は、マララさんでした。スクールバスで帰宅中、銃を持った男が車中に押し入り、どの生徒がマララさんか教えなさいと全員を殺すと脅したのです。恐怖に駆られた生徒たちは、マララさんの方を見つめるほかありませんでした。男は銃口をマララさんの頭に向け、至近距離から発砲しました。

事件から6日後、戦争被害者の治療を専門とする英国パーミンガムの病院に搬送されたマララさんは、そこで昏睡状態から目覚めました。

「どの国に私はいるのですか？」とマララさんは尋ねたそうです。謙虚に振る舞いつつ、彼女は毅然として述べました。「タリバーンは私を殺そうと思ったことでしょう。でも、そうはさせません」

父親には「安心して」と声をかけ、ジラニさんには「人びとを助けようとする私のことを、きつと神様が守ってくれる」と述べました。

希望を新たに

2013年3月、マララさんは、パーミンガム市内の学校に通学し始めました。「私は一人の女の子に過ぎない」と彼女は言います。英国での勉学を開始したマララさんは、最初に、すべての子どもの教育を受ける権利を訴える署名活動を行いました。

父親は、ゴードン・ブラウン国連世界教育特使(元英国首相)の諮問役となりました。マララさんは、世界の人が知る存在となりましたが、心の中には常に、故郷に再び繁栄の日が訪れることへの希望が宿っています。

ジラニさんは、スワート地方への物資提供を通じて、地道な支援活動を続けています。「マララさんに起こったことは本当に恐ろしいことです。しかし、これによって世界が彼女に耳を傾けることになりました。きっと、彼女の目標を支える大きな力となるでしょう。いつの日か故郷へと戻り、私たちの活動が生み出した変化を知ってもらえたらいいなと感じています」

故郷に変化をもたらすこと、これはマララさんにとっても同じ願いです。彼女の父親は、今回の事件を振り返りながら、いつか故郷に帰ることを望んでいます。

「私たちの故郷、スワート渓谷に帰る日のことを夢見しています。そしたら、マララにもロータリーに参加してもらいます」

ロータリーのニュースは、国際ロータリーのツイッター日本版をフォローしてご覧ください。
記事：Kevin Cook 本稿は、「ザ・ロータリアン」誌2014年1月号からの抜粋です。 14-Jan-2014



国連本部でのスピーチ

【2013年7月12日 マララ・デー】



親愛なるみなさん、2012年10月9日、わたしは左の側頭部をタリバンに撃たれました。わたしの友だちも撃たれました。タリバンはピストルでわたしたちを撃てば、わたしたちを驚らせることができると考えたのでしよう。でも、そうはいきませんでした。わたしたちが声をあげられなくなったとき、何千人もの人々が声をあげたのです。

親愛なる兄弟姉妹のみなさん、わたしはだれと争う気持ちもありません。タリバンやその他のテロ集団に復讐してやろうという気持ちもありません。わたしがここにいるのは、すべての子どもには教育を受ける権利があると訴えるためです。タリバンを含めすべてのテロリストや過激派の子どもたちにも、教育を受けてほしいと思っています。

わたしは、わたしを撃った犯人のことも、憎んでいません。もしわたしが銃を持っていて、目の前に犯人が立っていたとしても、わたしは撃ちません。この思いやりの心を教えてくれたのは慈悲深い預言者ムハンマドであり、イエス・キリストであり、仏陀です。意識を変革することを教えてくれたのは、マーティン・ルーサー・キング、ネルソン・マンデラ、ムハンマド・アリー・ジンナーです。非暴力の哲学を教えてくれたのは、ガンディー、パシャ・カーン、マザー・テレサ。そして、人を許す心を教えてくれたのは、わたしの父と母です。わたし自身の魂も、こういつています。「平和を大切にしない、すべての人を愛しなさい」

「ベンは剣よりも強し」ということわざがあります。まさにそのとおりです。過激派は、本とペンを恐れていました。そしていまも恐れています。教育の力が怖いのです。彼らはまた、女性を恐れています。女性の声を持つ力が怖いのです。だから、彼らは人を殺すのです。最近では、クエッタの罪のない学生を14人も殺しました。女性教師や、ポリオ撲滅を目指す活動家を何人も殺しました。毎日学校を爆破するのも、同じ理由です。昔もいまも、かれらは変化を恐れているのです。わたしたちの活動によって、平等な社会が生まれたら困ると思っているのです。

わたしの学校の男子が、ジャーナリストから「タリバンはなぜ教育に反対しているのか」と質問されたことがあります。男の子はとてもシンプルに答えました。本を指さして、「タリバンはこの本に何が書いてあるか知らないからです」といったのです。テロリストは、神様のことを、学校に通っている女の子をただそれだけの理由で地獄に落とすような、心の狭い保守主義者だと思っているのです。テロリストはイスラムの名とパシュトゥン人社会を利用して、自分たちの利益を求めています。パキスタンは平和を愛する民主主義国家です。イスラム教は、平和と人道と同胞愛を重んじる宗教です。イスラムの教えによると、子どもには教育を受ける権利があるというだけではありません。おとなにも、子どもに教育を受けさせる義務と責任があるのです。

事務総長殿、教育には平和が必要です。世界の多くの地域で—なかでもパキスタンとアフガニスタンではとくに、テロや戦争、紛争によって、子どもたちが学校に通えない状況になっています。戦争や紛争はもうたくさんです。親愛なる兄弟姉妹のみなさん、いまこそ声をあげるときです。

すべての政府をお願いします。世界じゅうのすべての子どもが無償で義務教育を受けられるようにしてください。テロや暴力と闘い、子どもたちが現行為や危害を受けないようにしてください。先進諸国をお願いします。開発途上国の女の子の教育機会拡大を支援してください。

親愛なる兄弟姉妹のみなさん、すべての子どもの輝ける未来のために、わたしたちは学校と教育を求めます。わたしたちはこれからも旅を続けます。その目的地は、平和と教育。だれもわたしたちを止めることはできません。わたしたちはみずからの権利を求めて声をあげ、その声によって変化をもたらします。

言葉には力があります。わたしたちの言葉で世界を変えることができます。みんなが団結して教育を求めれば、世界は変えられます。でもそのためには、強くならなければなりません。知識という武器を持ちましょう。連帯と絆という盾を持ちましょう。

親愛なる兄弟姉妹のみなさん、忘れてはなりません。何百万もの人が貧困、不正、無知に苦しんでいます。何百万もの子どもたちが学校に通えずにいます。わたしたちの兄弟姉妹が、明るく平和な未来を待ち望んでいます。

そのために、世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。本とペンを持って闘いましょう。それこそが、わたしたちのもっとも強力な武器なのです。ひとり子ども、ひとり教師、一冊の本、そして、1本のペンが、世界を変えるのです。

教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を。



次回の例会

第1633回例会 半田RC・半田南RC 合同例会
3月20日(木) 於 ブライダルホール白山